届け 世界の果てまでも

令和２年　７月３日
Ｎｏ．１７
文責　校長　飯久保一男

7月より，タイトルをマイナーチェンジしました。

子どもの自立のために　　たまには痛い目にあわせましょう

自立への第一歩として「**困る経験**」が大切であることは前号で書かせていただきました。しかし，困っている子どもには，つい手を貸したくなるのは「**親心**」です。親が手を貸すかどうかは，子どもの困っている内容によりますし，子どもからの「**助けてのお願い**」があるかないかにもよります。

親の関わり方の一つの例です。女の子がぬいぐるみを大切にしていましたが，見当たりません。「お母さん，ぬいぐるみ知らない？」と母親に聞いてきました。実は，母親は掃除をしたときに，そのぬいぐるみが子ども部屋の机の下に転がっていたのを知っています。こういうとき，母親はどうしたらいいでしょう。

子どもの自立を願うのであれば，「ぬいぐるみ？ 今日は見てないよ。」と，あえて知らないふりをすることをお勧めします。「机の下にあったよ。」「ほらここにあるじゃないの。だからちゃんと片づけをしなさいって言ってるでしょ。」などと，教えたり，注意したりしないようにします。親が簡単に正解を言ってしまうと，すぐに親に頼る子になってしまいます。

大切なものをなくしてしまったとき，苦労しながら探してやっと見つかり，「こんなことにならないように置き場所を決めよう」と子どもが自ら考えたり，どうしても見つからなくて困ったりする経験をしたほうが，子どもの自立につながります。もし「一緒に探して。」と「助けてのお願い」があったら，親は探すふりだけで構いません。気づかないふりをしつつ「私がこっちの部屋を見てあげるから，あなたは自分の部屋を探してみなさい。」と誘導するにとどめます。

大切なものをなくして悲しんでいる子どもを見ると，親としてかわいそうだと感じるのはよくわかります。「ここにあるよ。」と教えてあげたり，なくしたものを新しく買ってやったりしたくなるものです。しかし，目先のかわいそうを優先してしまうと，ものをなくさないための術（すべ）を自分なりに見つけ，どうすれば探しものが見つかるかということを学べません。**目先のかわいそうを優先してしまうことで，将来的にもっとかわいそうな状況をつくりだしている**ともいえるのです

もう一つの例です。母親と子どもで「ゲームは１日１時間まで。それを破ったら次の日はゲーム禁止。」という約束をつくりました。ところが…，早々に子どもが約束を破ってしまい，ペナルティを科すことになりました。翌日，子どもは涙ながらに母親に「お願い，どうしてもゲームがしたい…。」と泣きついてきました。どうすれば子どもの自立につながると思いますか。

子どもが何を言ってきても，約束通りペナルティを科すべきです。子どもに「約束を守らないと損をする」「そのときの楽しさに流されたら損をする」という痛い目にあう体験をさせることが肝心です。「泣いているのはかわいそう」ではなく，「約束をないがしろにしてガマンを経験できないことのほうがかわいそう」と，**将来的なかわいそう**を考えられる親であれば，子どもを自立させることができると思います。

（参考）「子どもには、どんどん失敗させなさい」（水野達朗:著）

一部教職員に好評のため，またしても父と子どものコラムの紹介です。

行列のできない名店

日曜日の昼間，ごろ寝でテレビを見ていると，
居間に入ってきた息子（小6）がポツリと私に声をかけた。
「ラーメン食べる？」
「え？　ああ，もうお昼か。そうだな，母さんも出かけているし，たまには出前でもとるか。」
「いや，僕がつくるから。父さんも食べるかなと思ってさ。」
そう言って息子はキッチンへ入り，何やらガサゴソとやり始めた。
「へぇ，お前つくれるのか？」
「けっこうイケるって。カップ麺じゃないよ。インスタントだけど。」
上等，上等。
そういえばインスタントで思い出したが，昔こんなことがあった。
まだ息子が幼稚園のころだ。
妻と３人でラーメン屋に入ったのだが，
注文を取りにきた店員さんに向かって，息子は笑顔で元気よく
「僕は，インスタントラーメン下さい！」

「できたよ。」
その息子が店員よろしく運んできた。
お，卵も入っているぞ。どれどれ…。
「うまいじゃないか。すごいな。」
息子の頬が少しだけ緩んだ。
ふーん，知らないうちにいろいろできるようになっているんだな。
しかも生意気にも
「父さんのは野菜いっぱい入れたから残さず食べてよ。
　あとスープは塩分とり過ぎが気になるなら残した方がいいんじゃない。」
だと。
やれやれ君は母さんか。
でも母さんが帰ってきたら報告するよ。
今日の昼は最高のラーメンだったって。

（花王「暮らし百景」より）

現在は一緒に住んでいませんが，私にも息子が２人（２７歳・２４歳）います。
残念ながら，ヤツらに食事をつくってもらったという記憶がありません。
カップ麺のお湯を入れてもらったことが最大の思い出です。